



令和3年度

山形市

**地域包括支援センター
の概要**

山形市 長寿支援課

目 次

I 山形市地域包括支援センターの活動

1	地域包括支援センターの概要	1
2	地域包括支援センター 経営者会議	3
3	地域包括支援センター センター長会議	3
4	地域包括支援センター ブロック情報交換会	4
5	機能別部会活動	4
6	自立支援型地域ケア会議	5
7	地域ケア調整会議	5

II 各地域包括支援センターの活動

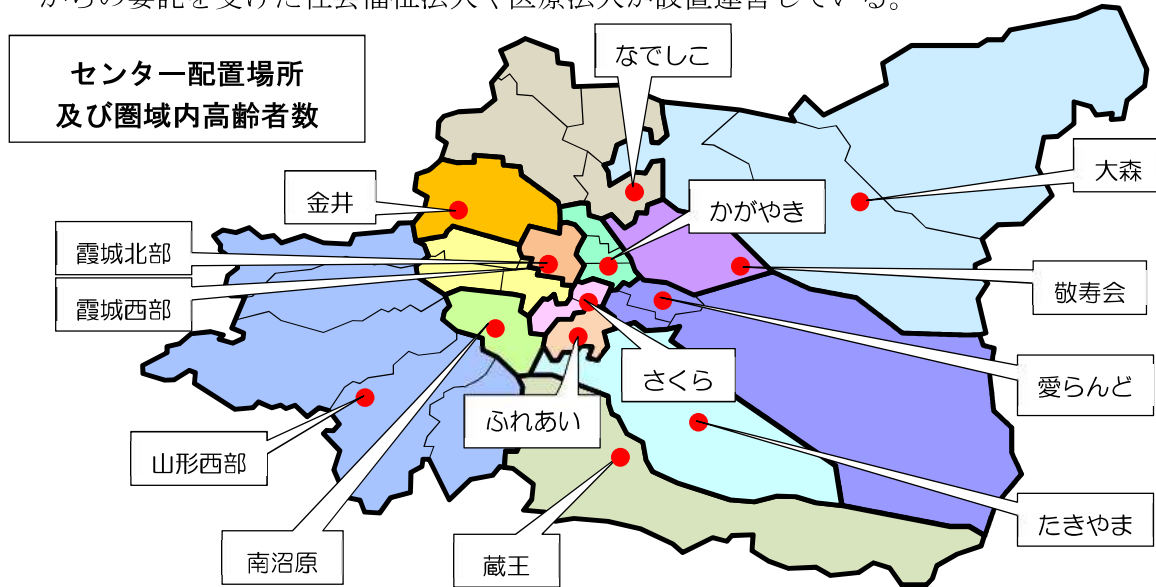
1	済生会なでしこ地域包括支援センター	8
2	地域包括支援センター大森	10
3	地域包括支援センター敬寿会	12
4	たきやま地域包括支援センター	14
5	地域包括支援センターふれあい	16
6	山形西部地域包括支援センター	18
7	篠田好生会さくら地域包括支援センター	20
8	地域包括支援センターかがやき	22
9	山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター	24
10	山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター	26
11	蔵王地域包括支援センター	28
12	済生会愛らんど地域包括支援センター	30
13	南沼原地域包括支援センター	32
14	金井地域包括支援センター	34
15	山形市基幹型地域包括支援センター	36

I 山形市地域包括支援センターの活動

1 山形市地域包括支援センターの概要

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように、包括的及び継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的役割を担う機関として、山形市では、高齢者人口や地域特性等を考慮し、市内を14の圏域に分け、各圏域に「地域包括支援センター」を設置している。

山形市では、包括的支援事業業務委託により実施しており、地域包括支援センターは山形市からの委託を受けた社会福祉法人や医療法人が設置運営している。



済生会なでしこ地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市長町751		
担当地区	出羽、大郷、明治、千歳		
圏域人口	20,857	高齢化率	34.3
高齢者人口	7,144		

地域包括支援センター大森			
社会福祉法人山形			
所在地	山形市大字大森2139-1		
担当地区	楯山、高瀬、山寺		
圏域人口	8,952	高齢化率	40.6
高齢者人口	3,635		

地域包括支援センター敬寿会			
社会福祉法人敬寿会			
所在地	山形市五十鈴3-6-17		
担当地区	鈴川		
圏域人口	18,314	高齢化率	30.0
高齢者人口	5,502		

たきやま地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市大字岩波5		
担当地区	滝山		
圏域人口	23,104	高齢化率	26.9
高齢者人口	6,217		

地域包括支援センターふれあい			
医療法人社団悠愛会			
所在地	山形市桜田西4-1-14		
担当地区	第六		
圏域人口	13,399	高齢化率	29.6
高齢者人口	3,964		

山形西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市すげさわの丘46		
担当地区	南山形、本沢、大曾根、西山形、村木沢		
圏域人口	17,663	高齢化率	32.5
高齢者人口	5,732		

篠田好生会さくら地域包括支援センター			
医療法人篠田好生会			
所在地	山形市桜町2-68		
担当地区	第一、第二		
圏域人口	14,639	高齢化率	29.9
高齢者人口	4,372		

地域包括支援センターかがやき			
医療法人社団松柏会			
所在地	山形市旅籠町1-7-23		
担当地区	第三、第四、第九		
圏域人口	20,967	高齢化率	28.9
高齢者人口	6,053		

山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第七		
圏域人口	15,300	高齢化率	29.4
高齢者人口	4,499		

山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第十、飯塚、樺沢		
圏域人口	15,351	高齢化率	31.4
高齢者人口	4,820		

蔵王地域包括支援センター			
社会福祉法人妙光福祉会			
所在地	山形市蔵王半郷石高79-7		
担当地区	蔵王		
圏域人口	16,415	高齢化率	31.7
高齢者人口	5,201		

済生会愛らんど地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市小白川町2-3-1		
担当地区	第五、第八、東沢		
圏域人口	22,072	高齢化率	28.8
高齢者人口	6,349		

南沼原地域包括支援センター			
社会福祉法人山形公和会			
所在地	山形市沼木1129-1		
担当地区	南沼原		
圏域人口	17,593	高齢化率	28.3
高齢者人口	4,974		

金井地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市陣場903		
担当地区	金井		
圏域人口	15,667	高齢化率	28.9
高齢者人口	4,523		

基幹型地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区			
圏域人口		高齢化率	
高齢者人口			

山形市			
人口	240,293	高齢化率	30.4
高齢者人口	72,985		

※担当地区を持たない

R4.4.1 現在

2 地域包括支援センター 経営者会議

【開催目的】

地域包括支援センターの運営方針や予算・人員体制に関わる事項、制度改正に伴う説明、高齢者保健福祉計画の共有などについて協議する。

【参加者】

各地域包括支援センター受託法人代表者、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和3年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 6月24日	<ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターの相談実績等について・介護保険事業等の実施状況について・地域包括支援センター評価事業の実施について・山形市高齢者保健福祉計画（第8期介護保険事業計画）に関する住民懇談会について・外部会議への委員選出について・各センターの職員配置及び業務体制等について・指定介護予防支援事業の状況について
第2回 10月29日	<ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターの評価事業の結果について・山形市高齢者保健福祉計画（第8期介護保険事業計画）に関する住民懇談会の実施結果について・地域包括支援センター（指定介護予防支援事業所）の業務体制及び委託料について・地域包括支援センターの今後の体制について・山形市元気あつが教室の効果的な活用について・山形市高齢者及び障がい者の雪かき支援事業について・新型コロナウイルスワクチン接種支援報告について・在宅医療・介護連携室「ポピー」の職員体制について・認知症セミナーの開催について

3 地域包括支援センター センター長会議

【開催目的】

制度の周知と方針の共有、地域包括支援センターの共通課題についての検討、山形市からの情報共有などを行う。

【参加者】

各地域包括支援センター長、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和3年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 4月8日	<ul style="list-style-type: none">・長寿支援課・介護保険課・指導監査課の業務体制及び地域包括支援センター等の職員体制について・令和3年度包括的支援事業の実施体制について・令和3年度一般介護予防事業について

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度地域包括支援センター長会議等の開催予定について ・令和3年度地域包括支援センター評価事業のスケジュールについて ・山形市長寿支援課主催の研修会等の開催日程について ・山形市高齢者保健福祉計画（第8期介護保険事業計画）に関する住民懇談会について ・山形市による介護保険以外の生活支援サービスにおける変更点について ・介護認定調査の委託について
第2回 2月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・地域包括支援センター評価事業の実施結果について ・令和4年度地域包括支援センターの運営について ・令和4年度元気あっぷ教室の利用について ・介護保険利用者負担助成事業について ・長寿支援課ようご支援係の担当圏域変更について ・在宅医療・介護連携室「ポピー」の職員体制について
第3回 3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・令和3年度地域ケア調整会議について ・令和4年度一般介護予防事業について ・第1層生活支援体制整備協議体での取組について ・重層的支援体制整備事業について ・山形市地域包括支援センター運営方針の一部変更（案）について ・各包括的支援事業機関における令和4年度計画について ・包括的支援事業業務委託契約の変更点やスケジュールについて

4 地域包括支援センター ブロック情報交換会

【開催目的】

地域包括支援センター業務の円滑な遂行のために、3ブロック（北東、中央、南西）に分かれ、日常的な情報共有、業務上の課題の共有などを行った。地域包括支援センターが主体となり、各ブロック年6回程度開催した。

5 機能別部会活動

【開催目的】

地域包括支援センターの4つの機能（総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務）を向上・推進するために開催した。地域包括支援センターの業務上の課題について、専門性にに基づき分析し、解決に向けた取組み等を行った。

【令和3年度の実施状況】

名称	主な取り組み
総合相談部会	地域包括支援センター初任職員向けの研修、障害者相談支援事業所との合同研修の企画・運営など、地域包括支援センター職員のスキルアップや他機関との連携に向けた取組みを行った。
権利擁護部会	ワーキンググループを2班編成し、高齢者虐待対応・権利擁護ハンドブックの見直しを行い、対応の流れや役割分担の再確認、活動を通して職員同士の横のつながりの強化にもつながった。また、虐待対応のロールプレイを2ケース行い、チームで協力し問題解決するためのスキルを習得し、実践力を高めた。

包括的・継続的 ケアマネジメント ト部会	地域包括支援センター初任職員向けの研修実施や事例検討のスタンダード化と自立支援型地域ケア会議フォローのための作業班に分かれ、地域包括支援センター職員のスキルアップや居宅介護支援専門員の支援指導に活用するための手引きを作成した。
介護予防ケアマ ネジメント部会	部会メンバーが共通で取り組みたいと考えていることや疑問に感じている事柄について検討するワーキンググループを4つ編成し（介護予防の取組、通所Cとの情報交換、通所Aの捉え方、精神疾患の方への対応）、積極的な意見・情報交換や部会内でのアンケート調査により、現状把握や課題の抽出・整理を行った。

6 自立支援型地域ケア会議

【開催目的】

高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの支援や高齢者のQOLの向上、介護給付の適正化の取り組みに資することにより、医療・介護・住まい・生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現を目指すために開催した。

また、会議を通して、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員のスキルアップを図るとともに、検討事例を積み重ねることにより地域課題の把握につなげた。

令和3年度からの変更点として、市主催の会議は1回の開催につき3事例から2事例とし、1事例に充てる時間を30分から45分とした。

また、会議から見える地域課題の整理を行った。

【参加者】

- ・コーディネーター：長寿支援課・介護保険課職員
- ・事例提供者：地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所職員、小規模多機能型居宅介護事業所職員、看護小規模多機能型居宅介護事業所職員
- ・助言者：薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士

【令和3年度の開催】

市主催：12回開催（28事例） 地域包括支援センター主催：14回開催（28事例）

※市主催分については、高齢者のワクチン接種支援のため2回（6事例）を中止、9月以降は1回の開催につき3事例から2事例に縮小して実施し、合計14事例を中止した。

7 地域ケア調整会議

【開催目的】

包括的支援事業を担う多機関が把握・整理した地域課題のうち、多機関で共有して協議・対応すべき課題について、解決に向けた方向性と役割分担等を協議し、一定の方向付けを行った。

【参加者】

各機能別部会代表者、介護保険事業所、おれんじサポートチーム、在宅医療・介護連携室ポピー、生活支援コーディネーター、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和3年度の開催】

2回（11/17、1/27）

※7月及び9月にも開催予定だったが、高齢者のワクチン接種支援のため中止した。

Ⅱ 各地域包括支援センターの活動



1 済生会なでしこ地域包括支援センター

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 事業報告 ・令和3年度 事業計画 ・情報交換「各地区の状況と今後の地区活動をどのように進めていくか」

◇ 地区別ネットワーク会議(住民懇談会含む) 5回

◇ 地域ケア会議(虐待等個別の困難事例に関するもの) 12回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ 地区役員定例会への参加

会議名	千歳地区	出羽地区	明治地区	大郷地区
民生委員児童委員定例会	4回	2回	4回	夜間開催にて参加なし
福祉推進会議(地区社協総会を含む)	1回	なし	なし	1回
福祉協力員研修会	1回	1回	3回	1回
その他	ウォーキングマッププロジェクト4回		介護者激励懇談会	

2 権利擁護業務

◇ 高齢者虐待相談(困難事例含む)への対応 11件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 地域ケア会議の開催(ケアマネジャー支援に関するもの) 10回

◇ 居宅介護支援事業所研修会(2回)、オンライン情報交換会、管理者交流会 4回


◇ 地域密着型サービス事業所運営推進会議(書面会議) 6回

4 介護予防の取り組み

◇ 通所型サービスB(ひとあひ処「合」)の継続支援活動(移動支援打ち合わせ) 9回

◇ 介護予防教室(ながいき元気くらぶ・認知症スキルアップ) 6回

紹介したい取り組み

事業名	認知症サポータースキルアップ講座（2回の講座）
事業の目的	認知症サポーター養成講座を受講した方を対象に、認知症予防や、認知症になっても安心して暮らせるよう、より実践的な取り組みを学ぶ。
事業概要	<p>第1回は①認知症の基礎知識②認知症に関連した生活の備え（孤立防止、消費者被害、財産管理等）について 第2回は①認知症に関連する介護サービス②山形市の制度やサービスについて（徘徊、おかえり見守り事前登録、認知症カフェ等）③「人生会議」を考えるきっかけにもなるよう寸劇を見ていただく。</p> 
成果または感想	講座を回覧板で案内したところ、担当圏域から定員以上の申し込みがあり、地域住民の認知症に対する関心の高さが伺えた。認知症の方を介護している方からの個別相談もあり、講座後サービスに繋がせていただいた。また、講座をきっかけに介護施設でボランティアを始めた方もおり、参加者が少しずつ住み慣れた地域で活動できるようなきっかけづくりを今後も支援していきたい。

事業名	居宅介護支援事業所研修会（zoomによるオンライン形式で開催）
事業の目的	介護支援専門員相互のネットワークづくりや介護事業所との情報交換等により連携を深め、自立支援に資するケアマネジメントに取り組めるよう支援する。
事業概要	<p>1部 圏域内通所介護事業所での活動内容紹介 圏域内にある小規模・通所（A型含む）12事業所によるプレゼン大会 今後のケアマネジメントに活かしていただけるよう、各通所介護事業所からリハビリや活動などの取り組みを紹介していただく。</p> <p>2部 調剤薬局管理薬剤師からの講義 事例をもとに薬剤師の在宅訪問の流れや支援内容、居宅療養管理指導等を教えていただく。ケアマネジメントに位置付け、服薬環境の改善に向けた取り組みを利用者支援へ活かしていくことを改めて学んだ。</p>
成果または感想	新型コロナ感染症拡大防止のため初めてオンライン形式で圏域内居宅研修会をR3.7月に開催。環境がない居宅にも参集いただきzoomを体験した。10月に第二弾としてこの度の研修会を開催。すべての事業所でオンラインにて参加していただいた。今後も感染状況に合わせ、顔の見える関係づくりやケアマネジメントに活かしていただける取り組みを行っていきたい。

2 地域包括支援センター大森

1 総合相談業務

◇ 山形市高齢者保健福祉計画に関する住民懇談会



開催日	地区	主な議題
7月9日	楯山	介護予防の観点から外出や交流に関する取り組みについて、どのようなテーマに興味があるか。また、サロンなど地域活動の再開に向けてどのように考えているか。地区ごとに分かれて意見を出し合った。
7月20日	高瀬	地理的な要因を踏まえ、各種事業に幅広い年代層の方に多く参加してもらう方法はないか。全体で情報共有し、こちらから数名に指名し、意見を出して頂いた。
7月16日	山寺	若い世代が少ない中、地域に住み続けるために個人及び地区でのどのような取り組みが必要か。全体で状況を共有し、話し合い、意見を出して頂いた。

◇ 地区役員定例会への参加 36回

◇ 地区会議・行事への参加

高瀬地区：高齢者支援連絡会、地域福祉推進会議、福祉協力員研修会

楯山地区：合同研修会、買い物支援打合せ、福祉協力員研修会

山寺地区：福祉協力員研修会、地区社会福祉協議会全体会議

その他：各地区三者懇談会参加 20回

◇ ZOOM 練習会（山寺地区） 1回

◇ センターだよりの発行 6回

2 権利擁護業務

◇ 成年後見制度申立支援 1回

◇ 消費者被害防止の啓発活動 6回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 3回

・服薬支援ロボットについて・ACPについて

・災害時について情報共有

◇ 介護支援専門員個別支援 8回



4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 高瀬地区いきいき百歳体操継続支援

感染対策をしながら、8月下旬より再開した。いきいき百歳体操の実施に併せて長寿支援課の予防推進係と共に介護予防教室や体力測定を実施した。

◇ 山寺地区いきいき百歳体操の立ち上げ支援

8月よりやまでら館のホールにていきいき百歳体操を実施。アンケートを実施し、月に1回のペースで開始することとなった。こちらも、介護予防に関するプチ講座も併せて開催している。



◇ 高瀬地区・切畑地区認知症予防教室の後方支援

◇ 休石地区認知症サポーター養成講座

紹介したい取り組み

事業名	圏域内介護支援専門員連絡会 高齢者の服薬管理について	
事業の目的	圏域内の居宅介護支援事業所や小規模多機能事業者のケアマネジャーに対し定期的に情報提供や情報共有を行う。	
事業概要	今回は「高齢者の服薬管理について」をテーマに薬剤師を講師に招き、薬局が提供する居宅ケアサービスとして居宅療養管理指導や飲みすぎ予防・飲み忘れ予防・飲み違い予防に備えられる、服薬支援ロボットについて実際に動かしながら説明して頂いた。外来患者に提供出来るサービスとして、起こりうる副作用についての情報提供や、多職種連携の重要性も分かり易く説明して頂いた。普段から身構えずに薬剤師に相談してほしいと、お話があった。	
成果または感想	大森圏域は院内処方の医院が多いため、薬剤師と関わる機会が少ないことが自立支援型地域ケア会議でも課題としてあがっており、今回 ZOOM という形ではあったが、薬剤師との連携の重要性について学ぶ機会を設けることができ、また、服薬ロボットを知りえたことは大変有意義だった。実際に触れることは出来なかったが、利用者に提案してみたいなどの意見が多く、在宅生活を支える中で薬剤師との連携を図る重要性を改めて感じる事ができる研修となった。感染予防として初めてホストとなつての ZOOM での研修を行い、慣れない参加者も多かったが事前に練習をしたため、当日はトラブルなく進めることが出来た。	

3 地域包括支援センター敬寿会



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
3月書面開催	令和3年度の活動報告、次年度に向けて

◇ 山形市高齢者保健福祉計画鈴川地区住民懇談会

開催日	主な議題
7月5日	<p>山形市</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形市高齢者保健福祉計画（第8期介護保険事業計画）の概要について 地区別の調査結果等の説明 <p>敬寿会</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター敬寿会の今年度の取り組みについて 懇談 <p>テーマ「若い世代を取り込みながら、地域活動への参加者数を増やしたり、地域全体で健康について関心を持てるようにしていくためにはどうしていくと良いか」</p>

◇ いきいきサロン等への参加 1回

◇ 地区役員定例会への参加 20回

◇ 地区行事への参加

- 鈴川地区社会福祉協議会常任理事会
- 鈴川地区民生委員児童委員定例会
- 鈴川地区福祉協力員研修会
- 鈴川地区福祉関係者研修
- 鈴川交流センター「いきいき百歳体操」

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 介護予防教室～成年後見制度～ 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 個別支援型地域ケア会議 2回

◇ 介護支援専門員への個別支援 4回



4 介護予防ケアマネジメント業務

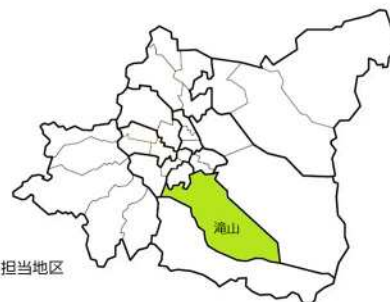
- ◇介護予防教室～健康講話～ 1回
- ◇出前講座(健康講話) 1回
- ◇認知症対応啓発活動 2回

紹介したい取り組み

事業名	鈴々倶楽部（フレイル予防教室）
事業の目的	第8期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査において機能低下リスクは市内平均より低く健康状態が良い方が多いが、健康や介護予防への意識が低いことが分かった。元気なうちから介護予防へ関心を持ってもらうこと、日常的に運動する習慣を持ってもらうことを目的に開催した。
事業概要	<p>6回1クール。毎月1回6～11月の間で鈴川交流センターにて実施。 コロナ禍であったことから、参加定員を10名募集。12名の応募があったため、全員を対象とした。</p> <p><配布物> 人生備えの書～SUKSKポイント対象～、居間から百歳体操DVD・説明チラシ、運動チェックカレンダー 以上を第1回開催時に書類ケースに入れ記名し配布。毎回持参してもらう。</p> <p><内容> 6月（講義）フレイル予防とは～人生備えの書～ （測定）自分の体を知ろう ～フレイルチェック・身長・体重・握力・バランス力・骨密度～ （運動）居間から体操をやってみよう</p> <p>7月・9月 （運動）運動指導～居間から体操～</p> <p>10月（栄養）食べることは元気の源</p> <p>11月（口腔）健康長寿は健口から</p> <p>11月 まとめ（測定と振り返り） 修了証書授与式</p> <p>※8月に（口腔）健康長寿は健口予防を予定していたが新型コロナウイルス感染症拡大の為に11月に延期し、11月は2回開催した。</p>
成果または感想	<p>運動習慣があまりない方を想定し企画を行ったが、参加者のほとんどが何らかの運動をほぼ毎日行っているかばかりであった。第1回で人生備えの書を利用して改めて活動や興味・関心事などを考え文字にすることで目標をもって運動に取り組んでもらえる意識づけにつながった。残念ながらコロナ禍ということで、予定していた調理実習&試食は調理見学のみ、口腔のブラッシング指導は中止となったが、これまで栄養や口腔について講義を受けたことがない方が多かったため大変勉強になった、と好評だった。</p>



4 たきやま地域包括支援センター



1 総合相談業務

- ◇ ネットワーク連絡会
10月29日開催 子ども高齢者見守りネットワークについて
- ◇ いきいきサロンや介護予防教室での相談対応 23回
- ◇ 地区役員定例会への参加
民生児童委員協議会定例会 12回 地区社会福祉協議会幹事会 1回
- ◇ 地区行事への参加 福祉推進会議、介護予防の集い中止のためフレイル予防リーフレット配布
地区社会福祉協議会代議員総会、福祉協力員研修会、住民懇談会、絆づくりの会（4回）
- ◇ センターだよりの発行 6回（全戸配布1回、回覧5回）

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 3回
(小学校、小規模多機能型居宅介護事業所、介護予防教室)
- ◇ 認知症サポーター懇談会 1回
- ◇ 権利擁護に関する周知啓発（消費者被害防止、高齢者虐待防止、成年後見制度）67回



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務



- ◇ 介護支援専門員連絡会 15回（居宅介護支援事業所11回、小規模多機能型居宅介護事業所4回）
- ◇ 介護保険サービス事業所連絡会 1回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 2回
- ◇ 個別地域ケア会議 7回
- ◇ 認知症カフェ 3回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 介護予防教室（フレイル予防） 5回
- ◇ 介護予防に関する講話・周知啓発 15回
- ◇ 通いの場・サロン等の継続支援（コロナ感染予防・体力測定） 11回
- ◇ SNSでのつながり支援

紹介したい取り組み

事業名	介護予防教室
事業の目的	コロナ禍での生活不活発予防、セルフケアの意識づけ
事業概要	6月から11月まで全5回開催。前半は介護予防講話、後半は運動の時間として散歩か軽体操を選択して参加してもらった。介護予防講話では、フレイル予防・栄養・口腔ケア・認知症・社会参加をテーマに、圏域内の事業所から講師の協力をいただいた。運動では、訪問看護連絡会で作成したお散歩マップを活用し、30分程度のコースを散策。散歩コースには電柱の数を数えるなど複数の課題を設け、コグニサイズ効果も狙った。
成果または感想	参加者は延べ69名。参加者からは来年度もぜひ開催してほしいとの好評をいただいた。参加者中7名の方からは包括のLINEグループに参加してもらい、教室終了後もつながれる仕組みを作った。今後もセルフケアの継続啓発や顔の見える仲間づくりに活用していく予定。

事業名	小学生への認知症理解の推進（南小学校 認知症サポーター養成講座）
事業の目的	幅広い世代への認知症理解の浸透と、子ども高齢者見守り拠点の周知
事業概要	<p>小学生から親や祖父母世代へと幅広く認知症理解が浸透することを目的に、毎年圏域内の小学校で認知症サポーター養成講座を開催している。今年度は南小学校で初の開催。昨年冬、南小の生徒が登校中、道端にたたく認知症の高齢者に声をかけ無事保護された、という出来事があった。子ども高齢者見守り拠点の設置を提案し、子ども110番連絡所についても周知した。サポーター養成講座では、認知症の高齢者への声かけ体験をおこなった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
成果または感想	声かけ体験では認知症高齢者への3つのない「驚かせない・急がせない・心を傷つけない」を守り、相手を思いやる声のかけ方を体験してもらった。積極的な生徒が多く、時折笑いが起こる中で楽しく体験することができ、認知症の方を地域で見守ることの大切さを理解してもらうことができた。

5 地域包括支援センターふれあい



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会開催

開催日	主な議題
5月中旬	新型コロナ感染予防のため書面会議とした ①令和2年度地域包括支援センターふれあい 事業報告書 ②令和3年度事業報告 ①②をお届け、ご意見を頂き活動の参考にした
10月9日	「地域厚生社会を目指して～災害が起きた時どうするか～」をテーマに、生活支援コーディネーター、第六地区社会福祉協議会、福祉まるごと相談員との共催。事前に高齢者関係以外の福祉事業所の情報交換会を開催した。当日は、高齢者、障がい者、子ども関係、それ以外の関係者から事例報告を頂き、参加者と共に情報交換した。山形市の防災アドバイザー佐藤氏より山形市の現状等について講話して頂いた。

◇ いきいきサロン等への参加

19回

◇ 地区役員定例会等への参加

22回

(民生委員児童委員協議会定例会・第六地区社会福祉協議会事務局会議)

◇ 地区行事への参加

第六地区：地区社会福祉協議会総会（事業開催に向けた会議等にも参加）福祉協力員研修会、老人クラブ総会、福祉推進会議、町内会総会、等

◇ センターだよりの発行

4回

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ(ふれあいほっとするカフェ)

1回

◇ 消費者被害防止啓発ボランティア交流会

1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員連絡会・情報交換会

2回

◇ 福祉関係者交流会

1回

◇ 「支え合い事業」プロジェクト

2回

◇ 介護ふれあい交流会開催支援

開催4地区

◇ サービス事業所連絡会・地区貢献支援活動

2回

◇ 医療関係者連絡会

1回（R2年度人生会議（ACP）アンケート調査実施のアンケートを集計・分析し、まとめたものを報告。）

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ ふれあい健康講座
 - ・ お口若返り講座として 2 回開催
- ◇ 通いの場継続支援（11 力所の通いの場に巡回）
- ◇ 健康かわら版の発行 1 回
- ◇ ふれあい版運動プログラムの発行 2 回
- ◇ 出前講座（介護予防 認知症 栄養講話・・・）7 回

紹介したい取り組み

事業名	人生会議普及事業
事業の目的	地域住民に「人生会議（以下 ACP）」の普及啓発を進めていくにあたって、まずは地域住民が ACP について知っているのか、医療や介護について話し合いを行っているのか。また、支援者が実際どのように ACP に関わっているのか実情を確認する必要があると考えた。今後 ACP を地域住民、支援者双方ともに身近なものにしていくため、調査を実施することにした。
事業概要	<p>地域包括ケアシステムの確立を進めていくための取り組みの中に、医療と介護の連携推進がある。将来にわたって望む暮らしができるよう、地域住民が在宅医療や介護、看取りを含む人生会議について理解を深め、在宅医療が必要になった時に必要なサービスを自ら選択できるよう、身近な医療機関、地域住民の理解が進むよう、ACP の普及啓発が必要であると考えた。ACP の普及啓発を進めていくために第六地区の実情を把握しようと考え、地域住民、支援者へアンケート調査を実施することにした。</p> <p>厚生労働省から出ている「人生最終段階における医療に関する意識調査」を参考にし、山形市医師会医療・介護連携室ポピーの協力を頂きながら、独自のアンケートを作成した。令和 3 年 3 月に圏域の民生委員児童委員、福祉協力員合わせて 129 名。医療福祉事業所として、圏域の医院（内科）、調剤薬局、居宅介護支援事業所、各種介護保険サービス事業所合わせて 40 力所にアンケート調査を依頼した。アンケート調査後、集計、考察を行い、令和 3 年 11 月に第六地区福祉協力員研修会などで調査報告や ACP についての講話、村山緩和ケア研究会や山形県公衆衛生学会で調査報告を行っている。</p>
成果または感想	<p>アンケートの結果から、地区住民も ACP についての関心があり話しを聞いてみたいが、医療や介護についての話し合いを家族等は出来ていないという現状を知ることができた。また、支援者側も最期が見え始めたときに話し合いを行うという結果だった。もっと早い段階から話し合いができるきっかけ作りをしていくことが必要と再認識することができた。</p> <p>また、アンケート結果を第六地区福祉協力員研修会で話す機会を頂いたことで、サロンで話す依頼も頂いている。令和 4 年度は ACP がもっと身近なものになるよう、サロンでの講話や広報紙での周知活動などを積極的に行っていきたい。</p>

6 山形西部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ 山形市第8期計画各地区住民懇談会(兼地区ネットワーク連絡会)

開催日	地区	主な議題
7月14日	南山形	1. 計画の概要について (市) 2. 地区別の調査結果等の説明 (市) 3. 市、地域包括支援センター等による今後の各地区における取組 4. 懇談 (包括コーディネート) 5. まとめ
7月9日	本沢	
7月15日	西山形	
7月7日	村木沢	
7月20日	大曽根	

- ◇ いきいきサロン・通いの場への参加 29回
- ◇ 南山形百歳体操(健康講話)8回、福祉道場 2回
- ◇ 本沢備える研修 2回
- ◇ 関係団体への研修会 2回
- ◇ 民生委員児童委員定例会/我が事丸ごと相談会への参加 27回
- ◇ 地区関係者・住民向け研修会/会議/行事等への参加 19回
- ◇ 地域密着型運営推進会議 6回 *書面開催あり
- ◇ はつらつ生活出前相談の開催(医療福祉情報) ※コロナ禍による事業中止
- ◇ 西山形介護者サロン「いっぶぐ会」 9回 (集会所やコミセン)
- ◇ 認知症カフェ、打合せ 4回 (市営南山形住宅)、(みこころの園南山形：開催自粛)
- ◇ 本沢地区元気もりもり応援隊活動支援 20回
- ◇ センターだよりの発行 5回
- ◇ ツナガル大曽根の発行 2回

2 権利擁護業務

- ◇ 出前相談等 (消費者被害/もしもシートの紹介等) 2回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 個別地域ケア会議の開催 8回
- ◇ 圏域内居宅連絡会・幹事会 4回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 10回
- ◇ 自立支援型ケア会議 4回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 介護予防講座:西山形はつらつ元気教室（コミセン/地区共催） 1回
- ◇ いきいきサロン・通いの場への参加 前述

紹介したい取り組み

事業名	本沢地区65才以上の明るい未来に備えての研修会	
事業の目的	地区住民の介護予防の意識向上を図る	
事業概要	R2年2月山形市のニーズ調査を受けて、本沢地区が介護予防重点地区に選ばれたこと、さらに地区社協の福祉協力員研修も兼ねた、一般住民に参加呼びかけをした備える研修会。	
	<p>第1弾 令和3年7月25日(日) 9:30~11:00</p> <p>内容: I部 講話「こころと身体のリズム、認知症の予防のポイント」</p> <p>II部 意見交換「あれ?認知症かな?その時どうする?(寸劇)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会で異変に気付いた同級生が声かけてくれた ・福祉マップ作り(三者懇談会)の場面での話から 	<p>第2弾 令和3年11月21日(日) 9:30~11:00</p> <p>内容: もしもの時のために“わたし”が備えておくこと。寸劇2本みて、わたしだったらどう備える?意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養を身近に感じた時のご夫婦編 ・親世代を見る編
成果または感想	<p>介護予防重点地区として取り上げられ、これまでサロンがなかった地区にサロンが立ち上がり、また、地区挙げて、今後各自が備えるべきことはどんな事かと、地区社協役員さんと度重なる打ち合わせ(内容の企画、準備等)から実施に至った点が良かった。2回目の研修は、地区住民のアンケート結果から、地区住民が在宅療養について詳しく知りたいというニーズに応え、在宅療養の話の中でもACPに触れることができた。</p> <p>課題としては、更なる専門的なことを知りたいということに今後どのように応えていけるか、センターとしては関係機関と一緒に考えていきたい。</p>	

7 篠田好生会さくら地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
	コロナウイルス感染拡大防止のため中止

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
11月4日	第一	テーマ「地域の特色を活かした集まりの場について考える」 ～ 第8期計画を受けて ～ ①山形市高齢者保健福祉計画 住民懇談会の振り返り ②グループワーク・第一地区の特色について
11月19日	第二	テーマ「社会資源を活用して第二地区をより住みよい町に」 ～ 第8期計画を受けて ～ ①山形市高齢者保健福祉計画 住民懇談会の振り返り ②グループワーク・第二地区の課題「低栄養」と「外出しての交流機会が少ない」について社会資源を活用して取り組みを考える

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 1 回
- ◇ いきいきサロンへの参加 11 回
- ◇ 地区役員定例会への参加 64回（民生委員協議会定例会 等）
- ◇ 地区行事への参加

第一地区：正副会長会、地区社会福祉協議会理事会、地区社会福祉協議会総会、福祉協力員研修会、福祉推進会議、福祉懇談会

第二地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、地区社会福祉協議会総会、地区社会福祉協議会事業打ち合わせ会

- ◇ 出前相談 36 回
- ◇ センターだよりの発行 4 回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 1 回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 8回

- ◇ 圏域内居宅連絡会（医療機関/民生委員との情報交換会、事例検討会等） 2 回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 52件

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 11 回

紹介したい取り組み

事業名	すこだま元気塾（第一・第二地区）
事業の目的	第一、第二地区住民の方々の健康維持を支援する
事業概要	今年度で5回目の開催。当センターが主催となり、企画・講師派遣調整等を行い、地区社会福祉協議会が共催となっている。コロナ禍で運動不足となっている高齢者も多いため、篠田総合病院の理学療法士を講師に招き、歩行に関する講話とエクササイズ体験を行った。
成果または感想	<p>「頭と体の体操になってとてもよかった」「知りたい事（歩き方のコツや歩数等）が色々わかり、とてもよかった」「今日のような運動だと、これからも参加したい」といった声が聞かれ、参加者からも好評を得た。今後も地域の方の声を内容に反映し、介護予防に取り組んでいきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
事業名	チームわん・つー！（圏域内福祉関係事業所の集まり）
事業の目的	圏域内事業所（他機関同士）の横のつながりをもち、情報交換をする。地域の事業所や専門職と地域がつながれる機会をもてるようにする。
事業概要	ネットワーク連絡会を通じ、地域内の医療・介護・障害の専門職同士が顔を合わせて情報交換ができる場が必要ではないかとの声上がり、令和元年6月より2カ月に1度開催となった。令和3年度は、コロナ感染予防のため全てZOOMで行い、全5回の開催となった。その時々での情報提供を行ったり、災害についての情報交換を行ったりした。
成果または感想	コロナ感染拡大予防のため、ZOOMで情報交換できるよう取り組んだ。実際に集合できなかったため、事業所間での交流が思うように上手くできなかった点があった。感染予防対策に取り組みつつ、顔の見える関係を構築できるよう支援していきたい。

8 地域包括支援センターかがやき

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月1日	① 令和2年度地域包括支援センターかがやき事業報告について ② 令和3年度地域包括支援センターかがやき事業計画について
3月18日	① 令和3年度地域包括支援センターかがやき事業 中間報告について ② 令和4年度地域包括支援センターかがやき事業計画の策定について

◇ 地区役員定例会への参加 24回

◇ 地区行事への参加（一部のみ記載）福祉協力員連絡会・研修会、地区社会福祉協評議員会総会、地域福祉推進会議、北部公民館つながり支援講座等 多数

◇ センターだよりの発行 4回（4月・7月・10月・1月発行）



2 権利擁護業務

◇虐待防止に関する住民への周知を図るため、広報誌に「虐待発見チェックリスト」を掲載した。

◇ 権利擁護相談 40件、（延べ件数43件、新規相談受付分のみカウント）

項目/ 地区	第3地区	第4地区	第9地区	その他	不明	延べ件数
後見関係	3	4	2	1	0	10
虐待関係	5	6	2	3	0	16
生活困窮等	5	5	1	0	0	11
その他	4	1	0	1	0	6
計	17	16	5	5	0	43

今年度新規相談として受付した相談のみを計上。コロナ禍での社会生活は一進一退の状況が続いているが、社会そのものが慣れてきたのか、自粛生活を余儀なくされた昨年度とは違い、権利擁護に関する相談は増加している。内容に関しては、経済的だけといった原因が一つだけのものでなく、障がいを抱えた子がいて、本人も認知症になってしまったなど複雑化・複合化した課題を抱えているケースもあり、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では、対応が困難になっているケースも多くなっている。件数には含まないが、安否確認の相談は17件、65歳未満の方の相談が延べ28件、8050問題と言われる相談が延べ5件の相談があった。

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 9回
- ◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 2回（連絡会・研修会）
- ◇ 圏域内ケアマネに、コロナ禍での研修方法等についてアンケートを実施
- ◇ 圏域内居宅、小規模事業所管理者懇談会 2回

◇ 幹事会 4回

介護支援専門員研修会	個別支援 (介護支援専門員からの相談に対する対応)
8月17日 第1回圏域内介護支援専門員研修会 「地域多職種で取り組むACPの実践」 山形医師会 在宅医療・介護連携室ポピー 室長補佐 徳田 喜恵子氏 グループワーク「事例を基にケアマネジメントプロセスの中でACPを考える」	・ケアマネからの個別相談は10件寄せられた。包括支援センターと連携のうえチームでかかわる意識が高まり、気軽に相談できる環境が整ってきたことも影響していると思われる。また、個別地域ケア会議開催件数は9件となっており、包括主催で、関係機関等との支援チーム形成を早期に行ったことで、ケアマネの個別支援に繋がっている。
1月14日 第2回圏域内介護支援専門員研修会 「重層的課題をもつケースを紐解いてみよう ～事例の課題整理の仕方を学ぶ～」 地域包括支援センターかがやき センター長 大江 祥子 事例発表、グループワーク	・対応の主なものは、個別ケースへの対応方法に関することが多いが、その中でも精神疾患のある高齢者や家族への対応、高齢者虐待や経済困難、認知症に関する事等相談が多く寄せられた。 ・生活支援サービス(緊急通報システム、徘徊登録、ゴミ出し支援)等の情報を掲載し関係者向けの情報誌を発行する。

4 介護予防ケアマネジメント業務

「住民主体の通いの場」については、長寿支援課予防推進係及び生活支援コーディネーターの協力を得て、立上げ支援や継続支援等を行なった。開催場所として、地域内の介護事業所などに場所の提供をお願いしている。住民が主体となって運営が継続的に行われており、参加者同士のゆるやかな関係性の中で生活支援等の互助も進んできている。コロナ禍においては、休止しているところもあるが、感染予防対策の点検などの支援を受けて徐々に再開している。

◇ 介護予防教室 述べ 32名参加 (コロナ禍で活動自粛)

◇ 出前講座 (介護予防に関する内容) コロナ禍で実施できなかったが、介護予防手帳を配布。

<紹介したい取り組み>

◇ 11/2 関係機関連携推進会議「かがやき会議」

「重層的支援体制整備事業について」及び「事例から考える多機関連携」

◇ 「フレイル予防を学ぼう講座」フレイル予防

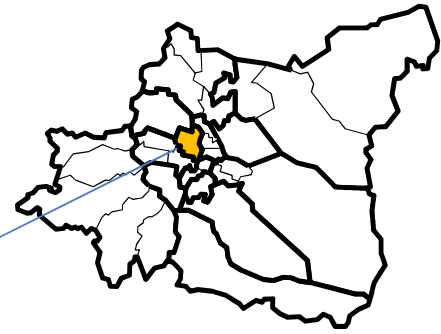
10月に全2回、フレイルサポーター養成のため、第九地区福祉協力員・圏域内事業所職員対象に以下の企画を実施し、延べ32名参加。今後、各通いの場へ普及するために、動画作成し講座に活用した。アンケート結果の満足度も高く、栄養摂取状態の個人結果が好評だった。

10/12 10/26 北部公民館 大ホール

- ・「フレイルって何だろう？」
- ・「食べることはフレイル予防の第一歩 DHQ テスト」
- ・口腔体操 運動の動画
- ・社会参加について



9 山形市社会福祉協議会 霞城北部地域包括支援センター



担当地区
第七

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月23日	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業計画・地域の計画について報告 介護予防（のんびりウォーク・江南公民館との共催等） 認知症カフェ立ち上げ支援についての協議
3月2日	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度活動実績と内容報告 日中独居・閉じこもり男性の方への対策についての協議

◇ 地区ネットワーク交流会 新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止

◇ いきいきサロンへの参加 6回

◇ 地区行事・会議への参加

福祉協力員ブロック代表者会議、地区社協評議員会、福祉協力員研修会、
三者懇談会（清水町・西下条・肴町一区・下条町3町内）、第七地区健康推進事業、
地域福祉推進会議、サロンスタッフのサロン

◇ センターだよりの発行 3回

- ・65歳以上高齢者宅全戸配布
- ・公民館・金融機関・医療機関・歯科医院・薬局・交番・介護保険事業所に配布

2 権利擁護業務

◇ 認知症高齢者声かけ訓練（第七地区福祉協力員研修・清江町サロン・下条三丁目いきいき健康講座）

◇ 男性介護者サロン

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員への個別支援 9回 ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 7回

◇ 圏域介護支援事業所連絡会（霞城西部・金井とzoomにて合同開催：事例検討）

◇ 医療連絡会（霞城西部・金井と合同：ACP書類作成し送付）

◇ 圏域サービス事業所連絡会（霞城西部・金井とzoomにて合同開催：昨年度実施したアンケート報告と情報交換）

4 介護予防ケアマネジメント業務

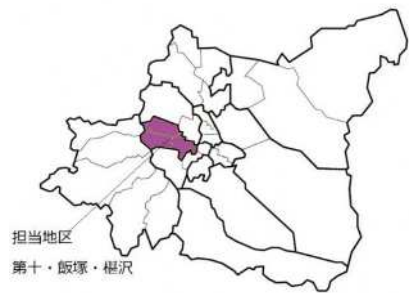
◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 12回

紹介したい取り組み

事業名	公園で出来るエクササイズ
事業の目的	新型コロナ感染拡大予防のため、外出する機会が減り、身体を動かす機会が少なくなることから、身体機能の低下や生活習慣病の発症、メンタル面への影響が心配される。公園の形状や勾配、遊具などを利用したエクササイズを学び、いつでも気軽に運動できることで、運動不足を解消し、元気に過ごしていただく。
事業概要	町内会有志と圏域内訪問看護事業所の理学療法士とともに公園の下見を行う。理学療法士より資料を作成していただき、運動することの大切さや、安全に行う上での注意点などの説明を受けた後に、その資料を見ながら実際にエクササイズを行った。1 周目準備運動 2 周目筋力トレーニング 3 周目頭の体操 4 周目整理体操の内容で実施。説明など含めて約 1 時間のエクササイズ。
成果または感想	猛暑の中での実施となったが、参加者は疲れも見せずに楽しみながら実施。終了後に「これなら教えてもらわなくても、自分たちでやれる。」「時間のある時に気軽にできる。」「ちょうどよい運動量だと思う。」などの感想が聞かれた。資料を参加できなかった方たちにも配布し、実施していただくこととなった

事業名	男性介護者カフェ
事業の目的	第 7 地区では妻や母親などを介護している男性介護者も多い。日頃の悩みや苦勞などを気軽に話していただき、地域社会からの孤立や心理的な負担軽減を図る。また、認知症についての知識や情報を理解していただく機会を作る。「認知症になっても安心して暮らせる地域」が地域全体に広がることを目指す。
事業概要	地区社協や地域事業所、薬局等と打ち合わせをし、認知症カフェの第一歩として、開催。対象者を第 7 地区の男性で、家族を介護している方、介護経験のある方、また、将来介護について考えている方とした。チラシを作成し周知。対象者のほかに、圏域内事業所、薬局の方々に参加いただいた。カフェタイム、ミニ講話（ストレス解消どうしてる？）、質問コーナーなどを設け、くつろいで話せるように、雰囲気作りや流れを工夫して開催した。
成果または感想	「こんなに自分のことを人に話したのは初めてだ。」「自分も大変だが、もっと大変な介護をしている人もいることがわかった。」「ぜひまた参加したい。」「事業所として家族の方の大変さを直に聞くことが出来、勉強になった。」などの声が聞かれた。今後、開催毎にテーマを決め、計画的に開催していく予定。

10 山形市社会福祉協議会
霞城西部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月30日	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の活動実績報告、地域の支援計画について コロナ感染対策をしながら取り組みについて意見交換
3月9日	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度活動実績、各地区のネットワーク構築のための活動の報告、各機関との連携の取り組みについて報告、地域ケア会議の開催について。

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
7月14日	第十	山形市高齢者保健福祉計画第十地区住民懇談会
7月16日	榎沢	山形市高齢者保健福祉計画榎沢地区住民懇談会
7月16日	飯塚	山形市高齢者保健福祉計画飯塚地区住民懇談会
12月12日		令和3年度飯塚地区地域福祉推進会議（霞城西部地域包括支援センターネットワーク連絡会） <ul style="list-style-type: none"> ① 第5次地域福祉計画について ② 飯塚地区の地域活動目標～お互い様で助け合う飯塚～ ③ 飯塚地区の強み・弱み

◇ いきいきサロン等への参加(100歳体操) 4回

◇ 地区役員定例会への参加 26回

◇ 地区行事への参加 18回
(第十地区)

福祉協力員世話人代表者会議、福祉協力員研修会2回、城西三区福祉連絡会2回、山本学園除雪ボランティア打合せ、城西一区三者懇談会、山形商業除雪ボランティア打合せ、山形市立第三中除雪ボランティア打合せ

(飯塚地区)

福祉協力員研修会、飯塚地区の交通課題を考える会5回

(榎沢地区)

我がごと丸ごと地域づくり推進事業検討会、福祉協力員研修会2回、西原防災マニュアル検討会

◇ センターだよりの発行 2回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症カフェ 2回 「おれんじミニカフェ in やよい」 共催
- ◇ 認知症予防教室 1回 認知症予防講座・脳トレ

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員個別支援 20回 ◇ 自立支援型地域ケア会議 4回
- ◇ 地域ケア会議 8回 ◇ 包括中央ブロック情報交換会 3回
- ◇ 医療機関連絡会(霞城北部・金井と合同) 10回
- ◇ 居宅介護支援事業所連絡会(霞城北部・金井と合同) 1回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 15回

紹介したい取り組み

事業名	ノルディックウオーキング運動教室
事業の目的	コロナ禍の外出機会や社会交流の機会が減少している状況で、閉じこもりによる運動不足の解消を目的として屋外で活動する機会を設けた。なお、ノルディックポールを利用したウオーキング運動は体への負担が少なく、効果的な運動ができるためその特徴を活かした。
事業概要	第十地区・飯塚地区・樺沢地区にて、当センター主催で各地区とも春秋2回開催。全日本ノルディックウオーク連盟後任指導員により指導いただく。ノルディックポールを利用し、普段の歩き慣れたルートおよそ3kmを歩き、運動習慣の定着、介護予防への意識向上につなげた。
成果または感想	このノルディックウオーキング運動教室は令和2年度から開催し、好評を得たためシリーズ化して開催している。令和3年度は圏域内で延べ69名の方が参加。参加者の身体状況や歩行ペースに合わせて職員が付き添い、マスクを着用しながらも全員完歩された。山形市健康ポイント事業 SUKSK も活用。今後は各地区の課題解決に連動するような視点を持って開催していきたい。



(第10地区)



(飯塚地区)



(樺沢地区)

11 蔵王地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月7日	山形市と蔵王地区社会福祉協議会と協議の上、山形市主催の「山形市高齢者保険福祉計画～第8期介護保険事業計画～に関する住民懇談会」と合同事業として企画・開催した。 協議内容 ①地域の活動に多くの方々に参加いただくためには ②老後の備えに必要な情報とは
1月28日	新型コロナウイルス感染拡大の為に中止としたが、令和3年度事業報告を書面で報告し、地域課題については書面にて意見を頂いた。 アンケート内容 ①地域の空き家問題について ②地域の高齢者が突然所在不明になることについて

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 6回
- ◇ いきいきサロンへの参加 20回
- ◇ 地区社会福祉協議会理事会への参加 5回
- ◇ 地区民生児童委員定例会への参加 12回
- ◇ 地区福祉協力員研修会への参加 2回
- ◇ 町内会三者懇談会への参加 3回
- ◇ 山形市立蔵王第一中学校運営協議会への参加 2回
- ◇ センターだよりの発行 3回
- ◇ サロンだよりの発行 4回



2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 6回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 20回

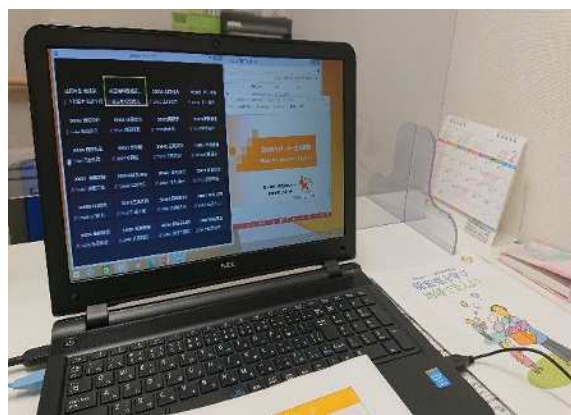
紹介したい取り組み

事業名	飯田第2町内ラジオ体操の会
事業の目的	飯田地区住民の健康の維持増進
事業概要	コロナ禍で地区のサロンの替わりになるものはないかと包括へ相談があり、他の地域で実施しているラジオ体操を公園で実施することを勧め実施に至った。
成果または感想	参加者は50代～80代後半の方まで幅広く、いつもはサロンに参加していない方や飛び入りでの参加もあり、サロンとは違う雰囲気が集まりの場となった。また、検討してから2～3週間の準備期間ながらも、参加者は毎回20名前後で、民生委員の周知活動の力に驚いた。
事業名	若年層への認知症サポーター養成講座の開催
事業の目的	若い世代に認知症を正しく理解してもらう
事業概要	地域の看護学校の協力を得て、毎年認知症サポーター養成講座を開催している。
成果または感想	医療従事者をめざす学生に認知症を正しく理解してもらう事で、より身近に認知症を感じ、理解を深められる場になるよう取り組んでいる。
事業名	サロンだよりの発行
事業の目的	新しい生活様式に合わせたサロン活動の継続
事業概要	コロナ禍でサロンの中止が相次いだ。その中でサロンを中止せざるを得ない町内の関係者の方達から、何かしら健康に関する情報や体操の資料などもらえないかと問い合わせが多くあったので、包括内で検討しセンターだよりと別にサロンだよりを発行する事にした。
成果または感想	全戸配布とまではいかないが、回覧板で回覧する事で多くの目に触れ、健康教室への問い合わせの連絡があった。コロナ禍でも健康への関心を持ち、参加してみたいという気持ちを感じる事ができ、サロン参加や健康教室開催へのモチベーションを高めることができた。

センターの活動状況



飯田第2町内ラジオ体操の会



厚生看護学校
認知症サポーター養成講座（zoomでの開催）

12 済生会愛らんど地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月8日 (第八地区)	<ul style="list-style-type: none"> ・第8期介護保険事業計画の概要について ・地区別調査結果の説明 ・「住み慣れた地域で安心して生活するために」懇談 ・令和2年度済生会愛らんど地域包括支援センター事業報告 ・令和3年度済生会愛らんど地域包括支援センター事業計画 (主な取り組み) ⇒住民懇談会と併催で実施
7月9日 (第五地区)	
7月13日 (東沢地区)	

◇ 民生委員児童委員との懇談会 各地区会長と連絡、連携実施

◇ 民生委員等地域の方々を通して臨時に広報紙配付協力を依頼し情報収集や啓発活動

◇ 公営住宅高齢居住者に関する懇談会

⇒コロナウイルス感染拡大防止のため開催は中止するが、書面、口頭での情報交換実施

◇ コロナ禍におけるいきいきサロン・ふれあいサロン再開に向けて助言等実施

◇ 地区役員定例会への参加 30回

(民生委員児童委員協議会定例会、東沢地区社会福祉協議会定例会、福祉協力員世話人会)

◇ 地区行事への参加

第五地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、新任町内(自治)会長研修会、サロン立ち上げ・運営継続の支援

第八地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、住民けんこうクラブ、サロン立ち上げ・運営継続の支援

東沢地区：福祉協力員委嘱状交付式、民生児童委員・福祉協力員との福祉ネットワーク、地域福祉推進会議、第五次地域福祉計画策定会議、地域福祉活動計画プロジェクト、福祉協力員研修会、サロン立ち上げ・運営継続の支援

◇ センターだよりの発行 5回(定期発行のほか、臨時号1回)

2 権利擁護業務

◇ 新型コロナに関わる詐欺予防啓発(お便り)

◇ 認知症サポーター養成講座

◇ 福祉サービス利用援助事業利用及び成年後見制度申し立て支援

◇ 後見支援チーム会議

◇ 高齢者虐待対応(個別ケア会議の開催、関係機関会議)

◇ 消費者被害への対応

◇ 圏域内コンビニ店との高齢者見守りネットワークの構築

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 個別支援型地域ケア会議の開催 8回
- ◇ 介護支援専門員に対する支援困難事例への個別指導・相談対応 7件
- ◇ 地域密着型事業所運営推進会議 6事業所 出席4回 他書面会議
- ◇ 地域密着型通所介護事業所運営推進会議 4事業所 書面会議

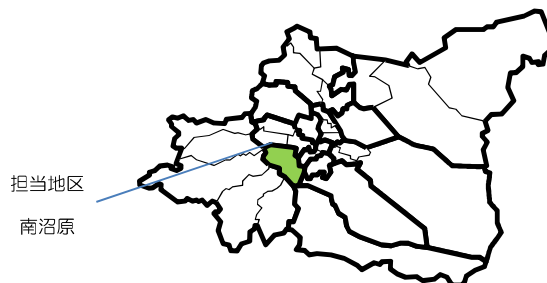
4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 東部公民館事業共催 いきいき100歳体操の運営・協力（第2、4木曜日）
- ◇ 愛らんど健康講座
 内容:①お口を動かして認知症予防(第五地区長寿支援課予防推進係介護予防教室重点圏域につき共催)②ウォーキングで心も体も健康に③調理実習講座～レンジやポリ袋でできる簡単調理～
- ◇ 地域サロンにて介護予防に資する講話を実施 全6回

紹介したい取り組み

事業名	コンビニ店との連携に向けた継続的な取り組み
事業目的	圏域内にはコンビニ店が11店舗（令和3年度現在）あり、高齢者にとっても、身近なお店になってきている。そこで、高齢者の見守りネットワークのひとつとして連携を図っていきたいと考え、平成29年度より取り組みを継続している。
事業概要	<p>平成29年度、コンビニ店にアンケートを取り実態把握をおこなった。その結果、高齢者は決まった店舗の固定客となることが多く、店舗側でも高齢者の状態像を把握しさりげなく支援している現状や、高齢者にとって買い物以外にも店員とのコミュニケーションの場にもなっている状況がわかった。そして半数以上の店舗で対応に苦慮した高齢者がいたと回答があった。そこで、コンビニ店と連携を図っていくために、平成30年度より愛らんどだより（年4回発行）を手渡して配布することにし、現在も継続している。</p> <p>令和2年度、おれんじサポートチームえがおとコンビニ店を訪問し「認知症かもしれない方への対応お役立ちガイド<お店版>」を配布。認知症を正しく理解し対応に活用していただけるよう啓発をおこなった。</p> <p>令和3年度、依頼を受け、おれんじサポートチームえがおと、あるコンビニチェーン店の市内南部の店長を対象に、認知症サポーター養成講座を開催。地域全体で認知症の人を見守るという視点や対応の工夫等を伝えることができた。その後、コンビニ店より「心配な高齢者がいる」との相談が入り、実際の対応をおこなった経過がある。</p>
成果または感想	コンビニ店との連携に向けた継続的な取り組みをおこなってきたことで、少しずつではあるが関係が進展してきた。実際のケース対応では、お店での見守りの目が、必要な人に必要な支援を届ける糸口になることを実感していただける機会となり、有効な連携になったと思われる。また、これまで取り組んできた中で振り返ると、コンビニ店ではオーナーや店長、店員の変動もあるため、地道で継続的な取り組みが今後も必要だと感じている。

13 南沼原地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
9月8日 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画とは ・第五次地域福祉活動計画について ・南沼原地区地域福祉活動計画について ・ICTの活用について
2月22日 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの明るい未来のために～社会参加の促進による健康づくり～ ・コロナ禍において工夫されている取り組みの紹介

◇ 地域ケア会議(個別事例に関するもの) 7回

◇ いきいきサロンへの参加(バスの乗り方講習会合) 8回

◇ 地区役員定例会への参加 21回

◇ 地区行事への参加

地区社会福祉協議会総会・役員会、民生委員協議会・三役会、地域福祉推進会議、町内会連合会、福祉協力員研修会、各いきいき百歳体操、各町内会三者会議 等

◇ センターだよりの発行 4回

◇ Facebookにて高齢者に役立つ情報の発信 189回

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ主催 14回 (脳いきいきカフェ5回・脳いきいきオンラインカフェ9回)

◇ 脳いきいきふれあいカフェ(相談会)参加 4回

◇ 知って得する認知症講座 2回 ◇ 商店等への認知症の普及啓発活動 9件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員管理者連絡会 10回 研修会、事例検討会等 2回

◇ 圏域内小規模多機能管理者連絡会 4回 研修会、事例検討会等 2回

◇ 圏域内事業所連絡会 2回 ◇ 圏域内運営推進会議への参加(書面含む) 11回

◇ 圏域内事業所連絡会おらっちょ会議 5回 (全体会議3回・プロジェクト会議2回)

◇ 圏域内介護職員向け研修 2回 ◇ 圏域内クリニック・薬局訪問 25ヶ所

◇ らくせいホール協議会定例会 10回 ◇ どんぐりの木定例会 4回

◇ ICT活用プロジェクト会議 5回 ◇ インターネット教室 6回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ おらっちょ体操の紹介 3ヶ所

◇ 通いの場継続支援 1件

◇ 出前講座「在宅療養を考える」 1回

紹介したい取り組み

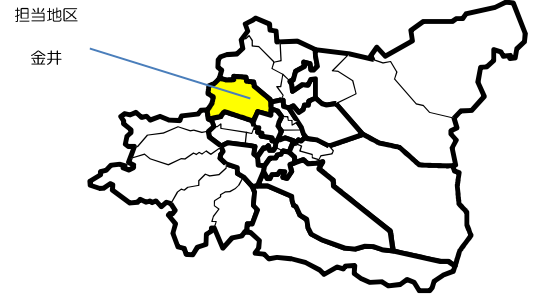
事業名	スマートフォン教室の開催
事業の目的	南沼原地区の住民より「災害時避難するかどうか判断する際に周囲がどうなっているか知りたい」「ワクチン予約の手続きがラインでできるようになりたい」「いきいきサロンなどいっしょでやっているのか知りたい」などの声があり、またデジタル庁が開設され今後はいろんな手続きがインターネットで行えるようになることから「おらっちょプロジェクト」で企画。
事業概要	<p>11/17 吉原集会所、11/18 南沼原コミュニティセンター、11/25 南館ふれあい会館にて、スマートフォンをまだ使ったことがない方で使いたいと思っている方や迷っている方を対象に行われた。山形県金融広報アドバイザーの内山順子先生に依頼し、携帯電話とスマホの違い、インターネットの使い方、ラインやインスタグラムについて、スマホを利用する際の注意点などをレクチャーして頂いた。</p> <p>第2回は2/24 吉原集会所、南沼原コミュニティセンター、3/1 南館ふれあい会館にて初心者向けインターネット教室を開催。</p> <p>内山順子先生よりワンクリック詐欺などの金銭トラブル防止・インターネット検索の方法について、山形市社会福祉協議会第一層生活支援コーディネーターの山蔭瞬先生よりオンライン交流・オンライン（ZOOM）のやり方についてレクチャーして頂いた。</p>
成果または感想	参加者の皆様は熱心に聞いておられ「スマホについてとても勉強になった」「これを機に購入を検討してみたい」「丁寧な説明でためになった。また開催してもらいたい。」「オンライン交流会に参加してみたい。」などの感想が聞かれた。



事業名	脳いきいきオンラインカフェ
事業の目的	集合型の脳いきいきカフェは、認知症の方やそのご家族、または予防したい方など誰でも参加できる場として、毎月1回南沼原コミュニティセンターで開催し、多くの方々の居場所になっている。しかし認知症カフェや人が集まる場合はコロナの感染が拡大すると休止となり、包括にも鬱になった方や認知症が進行した方の相談が増えてきた。脳いきいきカフェが休止になることで、あの方向けしているかなど気がかりな方が何名かいた。コロナ禍でも、何とか人との交流や活動できる場所を作れないかと企画運営メンバーで考え、脳いきいきカフェの参加者に参加希望を募ったところやってみようという方がいたので開始した。
事業概要	<p>R3年7月から毎月第3火曜日13時30分～40分間オンラインで交流。おれんじチーム、SC、居宅のケアマネジャー、小規模のケアマネジャー、包括、どんぐりの木も参加。当番ケアマネジャーからは事業所の紹介や様々な情報提供をしてもらっており、司会は交代で行っている。自己紹介や近況報告、しりとりや「20の扉」というゲーム、11月以降は毎月テーマを決めて、クリスマスやお正月の思い出を語り合い、交流や繋がり作りを図っている。</p>
成果または感想	<p>実際参加された方からは「こんな形で人と関わることが分かった」「楽しい。みんなで会話できて良かった」等の感想が聞けた。5、60代の方が高齢になり、インターネットの活用が得意な人が増える。いつの時代もコロナなどの感染症を心配したり、人の集まる場が苦手だったり交流の場に来れない方はいる。オンラインなら参加したいという方が増える時代が来るかもしれない。一人一人価値観や好きな事が違うため、当地区では地域の中にいろんな交流の場がある事を理想とし、地区の住民それぞれが自分に合う居場所があるという事を目指している。このオンラインカフェはその一つにすぎない。集まるカフェは女性の参加者が多いが、オンラインカフェは男性の参加者が多い。コロナ禍でも交流できる場として、今後もオンラインカフェを継続していきたい。</p>



1 4 金井地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月23日	職員紹介 報告 ・委員の交代について ・昨年度の概況報告（金井地域包括支援センター活動プロモーション上映） ・金井地域包括支援センター事業計画について 情報交換 ・高齢者支援における多機関連携について
11月24日	報告 ・令和3年10月までの活動報告について ・第1回ネットワーク連絡会のまとめについて 意見紹介及び意見交換
3月24日	報告 ・ネットワーク連絡会まとめについて ・金井地域包括支援センター活動報告について 意見交換

◇ 地域ケア会議(個別ケース) 10回 ◇ いきいきサロンへの参加 3回

◇ 地区行事・会議への参加

毎月…金井地区社会福祉協議会三役会、金井地区社会福祉協議会理事会、金井地区民生委員児童委員協議会定例会
金井地区福祉協力員総会・研修会、金井地区社会福祉協議会評議員会、新江俣町内会三者懇談会（年2回）、江俣町内会三者懇談会（年2回）、陣場町内会三者懇談会（年2回）、陣場新田町内会三者懇談会、吉野宿町内会三者懇談会、鮎洗町内会三者懇談会（年3回）、江南4丁目町内会三者懇談会（年2回）、金井地区地域福祉推進会議、金井地区社会福祉協議会新春交歓会、金井地区社会福祉協議会福祉部長合同研修会

◇ センターだよりの発行 3回

（65歳以上高齢者宅全戸・医療機関・歯科医院・薬局・交番・金融機関・介護保険事業所・ガソリンスタンド・コンビニエンスストア・地域内の商店・金井コミュニティセンターに配布）

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座(福祉協力員向け) ◇ 認知症サポーターステップアップ講座(通信講座として開催)

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員への個別支援 4件 ◇ 介護支援専門員との連絡会・幹事会・事例検討会（毎月）

◇ 医療機関連絡会(霞城北部・霞城西部包括と合同) ◇ サービス事業所連絡会

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 介護予防講座 12件

(転倒骨折予防講座、フットケア講座、ウォーキング、ボランティアミーティング、ACP・もしもシートについて、認知症サポーター養成講座、体力測定会など)

◇ ボランティア養成講座(金井地区防犯協会)

◇ ほっとカフェかなみ〜な(認知症カフェ)

◇ 金井あおぞら体操(毎週水曜日 9:00~)

紹介したい取り組み

事業名	ほっとカフェかなみ〜な(認知症カフェ)
事業の目的	山形市高齢者保健福祉計画(第8期介護保険事業計画)に関するニーズ調査の結果、金井地区では介護、特に認知症に対する不安を感じる人が多いということ、またその一方、担い手として地域で支援できることがあると思っっている方が多く存在していることが明らかになった。地域包括支援センターの総合相談や、ケアマネジャーからの個別支援についての相談の中でも、認知症の進行に伴う介護保険の相談や、虐待の相談、認知症発症による困難事例も多く挙がっている。認知症の本人やその家族、認知症について理解したい人が気軽に立ち寄り気持ちを共有したり学んだりする場を目的としている。
事業概要	認知症カフェ運営にあたり金井地区の事業所、住民が地域ぐるみで細く長く根付いた運営ができるように活動に賛同いただける方を広く公募した。認知症カフェ開催までにボランティア養成講座を開き、ボランティア活動に興味がある方を発掘したり、また昨年度開催したボランティア養成講座を受講した方などに声をかけたりした。毎月開催している居宅介護支援事業所幹事会の際に下記日程で趣旨説明やコアメンバー打ち合わせ会をおこない運営へ協力をいただく方を募る。令和4年3月3日にほっとカフェかなみ〜な(認知症カフェ)を開催。 ①金井地区事業所への趣旨説明会 令和4年1月20日(木) 14:30~15:00 ②金井地区住民ボランティアへの趣旨説明会 令和4年1月31日(月) 10:00~11:00 ③コアメンバー打ち合わせ会 令和4年2月22日(火) 10:00~11:00
成果または感想	当日は約20名の認知症の本人やその家族、認知症について理解したい人が来所され、自由な懇談などができた。感染対策で飲食はできなかったがミニ講話として認知症に関する本の中からトークセッションとしてご紹介し会話のきっかけづくりになったと感じる。家族同士が話をする場面なども持てることでお互いの悩みの共有や共感が得られる会となった。 認知症カフェ開催までの間に丁寧な趣旨説明を重ねることによって理解を得ながら進めていくことができた。コアメンバーの打ち合わせなどでは住民ボランティア、介護保険事業所の職員、居宅介護支援事業所のケアマネジャーでネーミングの協議や開催頻度、運営の仕方などを協議したことにより当日スムーズな運営ができた。 また年度末のネットワーク連絡会で周知方法などについて委員より助言をいただき近隣の医療機関や薬局へのチラシの配布、コミュニティセンターだよりへの案内の掲載などもご了解いただいたことにより周知を広く行い次回の開催を計画している。開催頻度なども参加者の声や振り返りをしながら今後継続できる事業としていきたい。

15 山形市基幹型地域包括支援センター

1 地域包括後方支援活動

- ◇ 包括主催会議への参加 68回 (打ち合わせ等 39回)
ネットワーク連絡会、他各種連絡会、交流会、研修会、その他等
- ◇ 包括機能別部会の開催 47回 (打ち合わせ等 80回)
総合相談部会、包括的・継続的ケアマネジメント部会
権利擁護部会、介護予防ケアマネジメント部会
- ◇ ブロック情報交換会 30回 (打ち合わせ等 6回)
南西ブロック情報交換会、中央ブロック情報交換会、北東ブロック情報交換会
- ◇ 市主催会議(包括関連への参加) 29回 (打ち合わせ等 27回)
センター運営者会議、センター長会議、センター情報交換会 等
- ◇ ヒアリング・定期訪問 108回
ミーティング、センター内会議、業務会議 等
- ◇ 個別事例対応(同行訪問) 12回 (打ち合わせ等 11回)

2 地域課題把握・解決業務

- ◇ 地域ケア調整会議への参加 7回 (打ち合わせ等 4回)
- ◇ 課題整理会議 14回 (打ち合わせ 11回)
- ◇ ワーキングチーム 3回 (打ち合わせ 4回)
- ◇ 自立支援型地域ケア会議の支援 24回 (打ち合わせ 45回)
- ◇ 個別ケア会議への参加 20回 (打ち合わせ 14回)

3 地域包括ケアシステム構築に関わる機関の主催する会議への参加

- ◇ 在宅医療介護連携推進事業 9回 (打ち合わせ 6回)
- ◇ 生活支援体制整備事業 70回 (打ち合わせ 43回)
- ◇ 認知症総合事業支援 33回 (打ち合わせ 12回)
- ◇ その他機関 13回 (打ち合わせ 16回)

4 事業所支援業務

- ◇ 日常生活総合事業(通所、訪問) 13回 (打ち合わせ 0回)
- ◇ その他事業所 54回 (打ち合わせ 43回)

5 その他

- ◇ 地域住民等への広報啓発活動 41回 (打ち合わせ 8回)
地区推進会議・地区活動参加・体力測定・サロン体操指導・他機関との調整 等
- ◇ 職員の資質向上のための会議・研修会参加 27回

紹介したい取り組み

事業名	課題整理（包括が捉えた課題の集約・地域課題等）と多機関連携の取組
事業の目的	<p>当センターでは、地域包括ケアの構築・深化に向けて、地域包括支援センターを中心に地域課題の抽出と整理を行うとともに、課題解決策の検討等に関する支援の他、各機関の連携促進や情報等の共有を図るために取り組みを継続している。経過の中で、積み重なる課題や時代に伴う新しい課題、複雑多問題の課題など、包括的支援事業（以下、事業）に求められる活動は多岐にわたる。さらに新型コロナウイルス拡大に伴い、事業の推進が思うように進められなくなるなど、幅広い対応が求められた。これまで以上に事業同士が協力し、より効果的で効率的な事業展開や連携を図ることを継続するため、運営の仕方や対応方法の創意工夫を検討し、その上で各事業の動きや考え方などを共有・情報交換および、課題の協議を進める場の充実・拡充を進めてきた。</p>
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●包括後方支援業務およびICT活用による業務継続支援（ZOOM会議など） <ul style="list-style-type: none"> ・「包括機能別部会」の役割見直し。専門分化した課題協議の取り組み実施。 ・「包括主催自立支援型地域ケア会議」や個別ケア会議の積極的後方支援。 ・YouTube配信「包括的支援事業所合同情報交換（SHOP・TV）」。 ●地域課題把握業務 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援型ケア会議の打ち合わせ等対応増加による継続した基盤整備。 ●地域包括ケアシステム連携業務 <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備事業の充実に向けた継続した基盤整備。 ・介護保険事業所連絡会や支えあい団体等との会議の開催支援の強化と、多分野にまたがる課題を、別事業同士で協議するための合同会議の実施。 ●広報活動の支援・推進 <ul style="list-style-type: none"> ・集会が出来ないことからの広報・連携の代替え策として「MCS」活用の拡大、ZOOM会議、YouTube、動画制作などの推進活動。 ・「きかん新聞」発行（年間3回）配布機関を拡げ配布（市内全事業所他、薬局への拡大）。
事業名	介護保険事業所連絡会
事業の目的	<p>介護保険事業所連絡会は、地域包括ケアの構築・深化に向けて、一体的な平準化やケアの質の向上を目的にし、また各事業種別で捉えた地域課題の抽出と整理や、課題解決策の検討等も協議し得る場として会を運営する。</p>
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●11事業種別の連絡会 <p>居宅介護支援事業所連絡会、訪問介護事業所連絡会、訪問看護事業所連絡会 通所介護事業所連絡協議会、通所リハビリテーション連絡会、短期入所事業所連絡会、福祉用具貸与・販売事業所連絡会、小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 通所C事業連絡会、訪問C事業連絡会</p> ●活動 代表者会（代表：居宅代表 副代表：通所代表 副代表：小多機代表）2回 全体連絡会代表者合同情報交換会 2回 地域ケア調整会議への参加 2回（居宅幹事3人） ●各連絡会の状況まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・各事業種別のコロナ禍による影響や課題の共有を行った。 ・訪問介護事業所連絡会は、備品の不足など事業全体の課題を把握し市との協議を行った。 ・事業の推進や理解の促進のため、連絡会独自でアンケート実施をした。 ・事業種別ごとだけではなく、協働会議を企画し提案した。

(第1層生活支援コーディネーターの取組)

事業名	第1層生活支援体制整備協議体 ～高齢者の孤立や事故防止に向けた多様な主体による日常的見守りの促進～
事業の目的	地区社協や地域包括支援センターによる見守りネットワークの構築に加え、訪宅系事業者が訪問する際の見守り視点を強化することで、人的・質的な多層ネットワークの構築を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none">○第2層生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、おれんじサポートチーム、まるごと相談、事務局（長寿支援課・第1層生活支援コーディネーター）からなるコアメンバーによる検討会を開催。○コアメンバー会議に、見守り等事業の実施企業（山形新聞・山形ヤクルト・生協・郵便局）を招集し、実情や好事例を把握した。○見守りによる異変時の通報窓口を整理（山形警察署との整理）○市内の訪宅系事業者（弁当配達・食材配達・新聞配達・宅配業者）及び山形警察署に趣旨説明を実施。また、見守りネットワークへの協力を確認。○第1層協議体全体会を開催。訪宅系事業者の本社・本部担当者に対する取り組みの合意形成を図った。また、取り組みの目的から、高齢者宅等を実際に訪問する配達員一人ひとりに周知できるよう、次年度支店・営業所まわりを実施する旨についても合意を得る。